

くらし・福祉を
ささえるまちへ



子育て応援します



北野のり子のい子だより

*議員団控室 Tel.740-1111

*日本共産党川西市委員会

川西市平野2-1-3

Tel.792-2164

北野のり子の活動をお知らせ
しています。

謹賀新年

みなさまにおかれましては、おだやかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年10月の市会議員選挙、12月の総選挙と続く中、大変お世話になりありがとうございました。お陰様で21議席へ躍進することができました。お正月を迎えることが出来ました。

今期初の一般質問では、子どもの貧困問題をとり上げました。いま、日本の子どもの貧困率が、(相対的貧困率) 16.3%。市でも6人から7人に一人の児童・生徒が生活保護あるいは、生活保護準用世帯であることから就学援助を受けています。誰もが安心して子育てできるようにと給付型奨学金の導入、就学援助の拡充、子どもの医療費の窓口負担ゼロを中学卒業まで実施するよう強く求めているところです。

引き続き、「くらし・福祉を支えるまちへ、子育て応援します」をスローガンに掲げ、全力で取り組みます。よろしくお願ひ申し上げます。

市会議員 北野のり子



中学校給食 早期実現を...



りこや干しエビ入りで栄養面でもバツチリ!!卒園する頃には、魚や和食好きに。朝食がコンビニのパンやおにぎりだったり、車中で朝食を済ますという子どもも少なくないようです。保育所から提供される給食やおやつの大切さを痛感します。

栄養士の方からは、各教科の年間指導計画と給食を連動させている。例えば、理科で学んだ種と発芽、目の前の給食で「もやし」が提供されるといふ具合。生きた教材が正に給食です。

小学校の先生からは、子どもたちの貧困問題を取り上げお話しされました。

中学校の先生からは、食パン2枚だけの朝ごはん。カロリーはとれるけど野菜やタマゴがない。お弁当の中身が冷凍食品ばかり。

中学校の教師が給食実施で懸念することは、昼休みの時間短縮や指導ができるか(現在荒れている教室。そうでない場合も)、給食費をきちんと集めることができるのか...など。

このように課題はあるけれど一つひとつ解決していくことが大事。保護者の後押しが必要だと述べられました。

去る12月23日、「川西の中学校給食を考えるフォーラム」が、アステプラザ6階・アステホールで開催されました。パネリストの保護者の方は、保育士でもあり「食」の大切さを保護者にも伝えておられ、勤務されている保育所では、国産、旬、手作りなどにこだわり、子どもたちに提供。クッキーは、い

川西市中学校給食推進基本方針 (案) パブリックコメント募集中(1月21日まで) 市役所、公民館などで閲覧できます。



市でもようやく中学校給食実施に向け方針(案)が出されました。

(案)では、小学校で実施している学校給食を中学校でも継続して行うことが基本。

(1) 安全・安心でおいしい給食の提供 (2) 食育の推進

(3) 地産池消の推進 (4) 家庭や地域との連携・交流の促進 (5) 学校給食関係の円滑な運営と透明性の確保が柱となつていきます。早期実施と円滑に進めるためにまずはモデル校を設定して先行的に実施し検討するとしています。

気になる財源は、自校調理方式(直営)で施設整備費と運営費合わせて約21億8千万円。国の補助金は、施設整備費の1割程度。お金はかかりませんが、子どもの将来にもかわることで。財源を惜しまず充てるべきです。

アンケート結果によると9割の保護者、半数の児童・生徒が中学校給食実施を望んでいます。「早期実現を」の声を一緒に上げましょう。

公立中学校 完全給食実施率 ワースト5

1位 大阪 (14.7%)

2位 神奈川 (24.9%)

3位 滋賀 (53.0%)

4位 兵庫 (53.8%)

5位 高知 (60.5%)

※全国の公立中学校の給食実施率は、85.5%